



World Wide Views in Japan NEWS LETTER 03

この度は、World Wide Views in Japan の活動にご支援をいただき、誠にありがとうございます。

World Wide Views in Japan の開催まで二ヶ月を切り、当日と同じスケジュールでの試行が行われるなど、準備も最終的な詰め段階となってきました。ニュースレターの第三号では、これらの準備の最新状況についてお伝えするとともに、アドバイザリーボードメンバーからのメッセージを掲載しました。また、World Wide Views in Japan の企画と連動して行われるいくつかの連動企画についてもご紹介いたします。

今後ともご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

World Wide Views in Japan 実行委員長 小林傳司 (大阪大学)

■ この1ヶ月のおもな活動 (2009年6月～2009年7月)

- 7月8日 WWV当日と同様のスケジュールで試行を行いました。【報告2】
- 7月14日 大阪大学理事と在阪報道関係者との懇談会において、World Wide Views in Japan の企画について説明しました。【報告1】
- 7月18日 一般傍聴についての案内をホームページで公開しました。あわせて、「World Wide views in Japan 傍聴要領」も公開しました。
- 7月上旬～ WWV当日に使用する情報提供資料、質問項目(英語版)が確定したことを受けて、日本語版の作成を開始しました。具体的には三週間余をかけて、地球温暖化問題に関する国内の専門機関が翻訳を行った上で、最終的には実行委員会副委員長の柳下氏と、実行委員の鈴木氏が、その妥当性についての確認を行い、日本語バージョンを完成させました。なお、この最終確認段階においては、IPCCのビューローメンバーでもある平石伊彦からもコメントを頂戴し、気候変動問題の知識に基づいた翻訳の適切性に関しては万全を期した形で、情報提供資料・質問項目(日本語版)が完成しています。
- 7月下旬～ 今後は、上記の情報提供資料・質問項目(日本語版)を、「一般市民の立場にたって」見直す作業を行います。具体的には、科学技術コミュニケーターの専門家集団である北海道大学科学技術コミュニケーション養成ユニット(CoSTEP)を中心に、一般の人々からみて、文章は読みやすいか、わかりにくい専門用語はないか、などについてチェックを加えていきます。最終的には9月上旬に、9月26日当日に使用する情報提供資料・質問項目(日本語版)が完成する予定です。

World Wide Views in Japan NEWS LETTER No.3





■ 報告 1 : 大阪大学理事と在阪報道関係者との懇談会にて意見交換を行いました

7月14日に行われた大阪大学理事と在阪報道関係者との懇談会において、World Wide Views in Japanの企画について説明しました。

在阪報道関係者からは、企画の主旨や、具体的な予算規模、本年12月のCOP15での政府交渉との関係性などについて質問があり、意見交換を行いました。また、出席していた阪大理事からも、この種の市民参加型の企画を大学が主催することの意義などについてコメントを頂戴しました。



■ 報告 2 : World Wide Views in JAPAN の試行を行いました

大阪大学コミュニケーションデザイン・センターが開講している授業の一環で、WWVの試行を行いました。具体的には、約20人の学生が3グループに分かれて、当日とほぼ同じスケジュールで、気候変動問題に関する議論を行いました。9月26日日本番よりは規模が小さいものの、一日かけて試行を行うことで、具体的な改善点などを抽出することができました。

またこの授業に参加していた学生を中心に、大阪大学の学生を対象に、大阪大学版のWWVを実行することになり、有志で実行委員会が立ち上げられました。





■ アドバイザリーボードメンバーからのメッセージ

World Wide Views in Japan 実行委員会では、有識者四名によるアドバイザリーボードを設置し、会議の企画・運営について、様々な角度からのコメントを寄せていただいています。今回のニュースレターでは、アドバイザリーボードの委員長である村上陽一郎氏（東京理科大学大学院教授）から、次のようなメッセージを頂戴しています。

輿論形成の一助として

今は、戦後の漢字制限で「世論」という言葉しか使えない状態だが、佐藤卓巳氏が『輿論と世論』（新潮社）で分析しておられるように、もともとは「よろん」と言えば「輿論」で、「世論」は「せろん」としか読まなかった。単なる一般大衆の「センチメント」ではなく、社会の構成員一人ひとりが、自らの経験と見識に基づいて、ある特定の問題に関して持つ見解が積み重ねられたものが「輿論」と言われる。

それは、その問題に関する専門家の、専門家の立場から造られる見解とは、必ずしも一致しない。もちろん、社会のなかには、たまたま当該の問題についての専門家もいるだろう。しかし「輿論」とされるのは、そうした専門家でも、専門家の立場に加えて、生活者としての経験と思慮（むしろ「賢慮」という言葉を使いたいが）とを、専門の知識に重ね合わせた上で形成される見解であるとみなしたい。それこそが、社会の「常識」つまり「コンセンサス」の基礎となるものだろう。

そうした「コンセンサス」を大切にし、社会的な意志決定に反映させようとすることは、民主主義社会においては、ほとんど必然的な手続きである。例えば、日本社会では、原子力発電に対する一般の不安や不満は、為政者側、あるいは事業者側の努力にもかかわらず、なかなか解消されないが、その理由の一つは、上のような手続きを踏まないままに、専門家たちの判断のみで意志決定が行われ、事業が進められてきたことにあると考えられる。後になって円卓会議を開いたり、聴聞会を開いたりして、「コンセンサス」の吸い上げを図ろうとしても、あまり効果が上がらないという点を考えれば、こうした手続きは、ことの「上流」でこそ大切であることが判る。

今回の WWViews の企画は、地球環境問題に関する社会の「コンセンサス」を量る試みと言えるだろう。この問題は、科学の専門家さえ、確定的な判断を下せない、という特徴を備えている。今、こうした試みが行われることには、極めて大きな意味があると考えている。

村上陽一郎





■ World Wide Views in JAPAN 連動企画について

■ 連動企画（1）Web版 WWViews

9月26日のWWViews世界市民会議は、各国で100人の市民が集まり、世界同時に開催されますが、本ホームページでもすでにご案内の通り、参加者募集はリクルーティングの専門機関に依頼します。そのため、一般公募方式による参加者募集は行いません。

そこで、「京都で世界各国と歩調を合わせて開催される『世界市民会議』の一端を多くの方々に体験していただき、『科学技術の関わる諸問題について、市民が、正確な資料や情報を踏まえて議論し意見を表明する』ことの大切さについても理解を深めていただきたい」という趣旨のもと、世界市民会議の共催団体である北海道大学科学技術コミュニケーター養成ユニット(CoSTEP)が、ウェブ版のWWViewsを開催することになりました。ご関心をお持ちの方は、是非御参加ください。

詳しくは下記ホームページをご覧ください。

<http://costep.hucc.hokudai.ac.jp/wwviews/>

■ 連動企画（2）大阪大学版 WWViews

WWVの企画と連動した大学院生の授業（科学技術コミュニケーションの理論と実践）の受講生が中心となって、WWV本番終了後の9月30日に、大阪大学の学生を対象に、WWV本番と同じプログラム、同じ情報提供資料・質問で、大阪大学版World Wide Viewsを開催する予定です。

現在、学生実行委員会が中心となって、参加者の募集や具体的な企画内容について検討中です。

詳細については、下記ホームページで案内していきます。

<http://www-osaka.net/>

2009年7月31日発行

【問い合わせ先】

大阪大学コミュニケーションデザイン・センター（八木）

〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-16

TEL/06-6850-6631

FAX/06-4865-0121

www-japan@cscd.osaka-u.ac.jp

World Wide Views in Japan NEWS LETTER No.3

